

浅野弥衛
Yae Asano

国島征二
Seiji Kunishima

鈴木淳夫
Atsuo Suzuki

山田純嗣
Junji Yamada

The Proof of Painting III
Tokai Version

絵画の証Ⅲ
—東海版—



Image: Seiji Kunishima

2021.9.17 Fri — 10.16 Sat

TEZUKAYAMA GALLERY VIEWING ROOM

TEZUKAYAMA GALLERY

TEZUKAYAMA GALLERY VIEWING ROOMでは9月17日より、アーティスト鈴木淳夫の企画によるグループ展覧会「絵画の証Ⅲ-東海版-」を開催いたします。

鈴木淳夫は2003年にギャラリーヤマグチコンストバウによって開催された展覧会「絵画の証」に参加し、それ以降「絵画とは?」という問題について考えてきました。

鈴木自身の作品は、色層を重ねて彫刻刀で掘るといったスタイルから、平面でありながらも立体彫刻的な要素もある故、常にその問題に直面し考察を続けて、この度このテーマについて改めてしっかりと向き合う機会として同タイトルの企画を行い、自らを含めた4名のアーティスト作品にフォーカスしました。

今回出展するアーティストは、浅野弥衛、国島征二、山田純嗣、鈴木淳夫の4名となります。

技術が進化し情報があふれる中で、ARTは様々な新たな表現方法が出てきていますが、今なお平面に描くという行為は主流であり続けています。過去にさかのぼっても、平面での表現の限界を常に叫ばれている中、平面表現は存在感を持ち続けています。

今回の4名の作品は全てが平面作品という訳ではないですが、鈴木なりの解釈によって絵画的な意味合いを探ることが出来ます。

なお、TEZUKAYAMA GALLERYメインギャラリーでは、2度目となる鈴木淳夫の個展を同時開催いたしますので、併せてご高覧頂けると幸いです。

[アーティスト・ステートメント]

「私は新しい絵画をつくっています。いつか美術館から「現代絵画の」と名のつくテーマの展覧会に選ばれることを夢見てきました。

唯一、ギャラリーヤマグチ企画の「絵画の証」展(CASO:大阪:2003)で発表することができました。

それからおよそ20年、絵画がテーマの展覧会に呼ばれる気配がありません。

「もう待てない。自分で企画しよう。」

そう決意したら、いろいろな方が協力してくれ「絵画の証Ⅲ」という展覧会を実現することとなりました。

私は美術館や画廊などで様々なアートを見てきました。

私は愛知県在住であり、必然的に東海地方の作家の作品を見る機会が多く、その中から今回私を含む4人の作家を選びました。

東海地方では、様々な機会に3人の作品に出会います。

浅野弥衛 (b 1914:故人)、国島征二 (b 1937) というベテランに山田純嗣 (b 1974)、鈴木淳夫 (b 1977) の若手が挑むような展覧会にしたいと思いました。

ベテランのお二方は何十年と独自の技法を使って作品を展開し、継続してこられました。

何十年前の作品を現在見ても、新鮮に見ることができます。

死ぬまで作り続け続け、作品が自分の時間を超えていくことがアーティストにとってのやりがいではないでしょうか？

4人は、それぞれ独自の技法を生み出し、制作を続けています。

長期に渡ってシリーズを続けることで見えてくるもの、技術を習得することで見えてくるものなど今回の展示を通して感じる事ができれば最高です。

最後に、2003年の「絵画の証」展の山口孝さんの文章です。

私は折に触れて読み返し、これからも考え続けていくと思います。

「いままで、幾度「絵画の終焉」という言葉を聞かされたことでしょうか。ドナルド・ジャッドは1960年代に絵画の可能性に対して懐疑的になり、スリー・ディメンションの世界に身をおくようになりました。しかし、このことは彼の個人的なアートに対する考え方であり、絵画の可能性を全体的に否定したものではありません。絵画の危機は、世の中の傾向、世相や、その時々々の風潮による仮の現象や揶揄にとらわれたところだけにあるのではなく、絵画が傾向としてもてはやされているときですら、つまりいつの時代にも存在するものであります。その問題の本質は絵画をする、絵画を作り出す側にあります。

絵画をしなければならぬのは何故なのか、絵画を創造することによってどうして触発されるのかという問題を絶えず考えつづけることの意義は、いま、切実に問われています。それは強いて言えば、創造する側の基準はどこにあるのかという問いかけの作業です。この展覧会がその作業をする機会となることを期待しています。(ギャラリーヤマグチ) 」

□ 作家略歴 | Biography



untitled / year unknown / pencil on paper / H653 x W910 cm

浅野弥衛 | Yae Asano

1914年鈴鹿市生まれ。1932年に職業軍人として満州に派遣され、戦後に独学で絵画制作を開始、59年から画業に専念している。桜画廊を中心に発表を続けた。96年没後も各地で展覧会が開催されている。1950年代後半から、「引っ掻く」技法を独自に追い求め、独特の叙情のある世界観を作り出していった。

Wrapped Memory Book Magnifying Gold (A) / 2020
mixed media / H35.5 x W21.5 x D 7cm

国島征二 | Seiji Kunishima

1937年名古屋市生まれ。米ロサンゼルスで、約20年間の作家活動の後、岡崎市の山の中で制作をしている。桜画廊、ノブギャラリーで発表し、現在も様々な画廊で展覧会を重ねている。

作品は主に「wrapped memory」と「積層体」のシリーズがある。「wrapped memory」シリーズは1969年ごろから開始され、現在まで自身の日記のように継続されている。「積層体」シリーズはアルミニウムを積層させ、石を包み込んだり、黒御影石やブロンズの枝を組み合わせていたりしている。



木片 / 2018 / acrylic on charcoal paper / H65 x W49.5cm(sheet)

鈴木 淳夫 | Atsuo Suzuki

1977年、愛知県生まれ、在住。静岡大学大学院教育学研究科を修了。

自身の作品を「彫る絵画(Carved Painting)」と称し、幾重にもパネルの上に塗り重ねた絵具の層を彫刻刀で削り出すことで様々な図柄を描く作風で制作を重ねている。

鈴木が作り出す画面は作家の息づかいすらも感じ取れる程の鮮明な行為の痕跡として鑑賞者に提示され、同時に「彫る」という反復行為によって顕在化した絵具の断層は、作家が作品と対峙した膨大な時間を物語っている。

山田純嗣 | Junji Yamada

1974年、長野県生まれ。美術史上の名画をモチーフに空間構造を読み解き立体化後に撮影、そこへ細密なドローイングを銅版で重ねていく独自の技法「インタリオ・オン・フォト」で表現される作品は、三次元と二次元、現実と虚構といった性質の違う要素を共存させ、絵画とは何かを問う作品となっている。ストイックさとポップさを併せ持つ独自の作品世界は、根強い人気を誇りファンも多い。名古屋市美術館のカレンダー制作や公開セミナーでの実技講座、アーティストークに参加するなど社会的活動も行う。

(16-13) EXPLOSION / 2016
photographic paper on polycoat panel, resin, peral paint / H280 x W280 mm

□ 作品 | Artworks



Wrapped Memory
2020
bronze, stone, lead
H42.1 x W51 x D13.8 cm
Seiji Kunishima



Untitled
year unknown
pencil on paper
H39.3 x W55.5 cm
Yae Asano



Carved Painting
2020
acrylic on panel
H120 x W90 x D3.5 cm
Atsuo Suzuki



(13-7) ONE : NUMBER 31
2013
photographic paper on polycoat panel, resin, glitter, Intaglio on photo, peral paint
H126 x W291 cm
Junji Yamada

□ 展覧会情報 | Exhibition Info

絵画の証III -東海版-

浅野弥衛 / 国島征二 / 鈴木淳夫 / 山田純嗣

2021.9.17 [Fri] - 10.16 [Sat]

[Cooperation]
不忍画廊 / AIN SOPH DISPATCH / Gallery Yamaguchi kunst-bau
GALLERY麟 / Masayoshi Suzuki Gallery

営業時間: 火 - 土 12:00 - 19:00 | 休廊日: 日曜日・月曜日・祝日
OPEN: Tue - Sat 12:00 - 19:00 | CLOSED: Sunday, Monday and Holiday
お問合せ: info@tezukayama-g.com / 岡田 (TEZUKAYAMA GALLERY)

〒550-0015 大阪市西区南堀江1-19-27山崎ビル2F
Yamazaki Bldg. 2F, 1-19-27 Minami-Horie, Nishi-ku, Osaka, 550-0015 JAPAN

t: +81 6 6534 3993 | e: info@tezukayama-g.com

